

第3次安来市総合計画

基本構想（素案）について

2025年6月12日

基本構想【10年】

メインターゲット：市民

- 【位置づけ】 安来市の将来の目標及び目的達成のために必要な施策大綱を示し、まちづくりの基本指針を明らかにするもの。
- 【作成方針】
- 市民にとってわかりやすく、手に取り、読みたくなる内容・表現
 - 市民が自分ごととしてまちの将来を考えたり、行動するきっかけとなるもの
 - 安来市のこれからの担う子ども・若者にきっかけを与えるもの

基本計画【5年】

メインターゲット：行政（職員）

- 【位置づけ】 基本構想で定めた安来市の将来像を達成するために必要な施策・事業の基本的な考え方を示すもの。
- 【作成方針】
- 施策の目的を市民目線でわかりやすく整理する
 - 各分野の目指す状態（ゴール）を示し、実現に向けて必要な取組を描く
 - 協働のまちづくりや健全な行財政運営の視点を踏まえる

総合戦略【5年】

メインターゲット：行政（職員）

- 【位置づけ】 将来の人口動向を見据え、人口減少に立ち向かうための行動指針と必要な施策・事業を示すもの。
- 【作成方針】
- 国における地方創生の方針を踏まえ、安来市の方針を整理する
 - 人口減少対策、定住促進対策として戦略的に実施すべき取組を描く

現行計画の基本構想（将来像・基本理念）について

将来像 「人が集い 未来を拓く ものづくりと文化のまち」

→（見直しの方向性）

- ・ 大人も子どももわかりやすい言葉
- ・ 未来に希望が持てる言葉
- ・ 安来らしい言葉
- ・ キャッチフレーズとして使いやすい言葉

基本理念 「活力」 : 活動的でいきいきしているまち
「快適」 : 便利で住みよいまち
「らしさ」 : 地域らしさがあり、独自性のあるまち
「つながり」 : 立場をこえて支えあっているまち
「安心」 : 不安なく暮らせるまち

→（見直しの方向性）

- ・ これからの10年間のまちづくりにおいて、特に重視すべき要素を検討

これまでの調査結果や意見等を踏まえた、今後10年のまちづくりの方向性（案）

コンセプト

目指すまちの姿（イメージ）

方向性1
「つながり・共生による
暮らしの向上」を重視



- ・ 地域とのつながりが一層深まっている
- ・ 一人ひとりが幸せを実感できている
- ・ 子育てしやすい環境がある
- ・ 困りごとが解決できる仕組みが地域にある
- ・ 自然と共生しながら、心身ともに豊かに暮らすことができている

方向性2
「環境変化に対応した新
たなまちづくり」を重視



- ・ 中心市街地に市内外から人が集まり、にぎわいが生まれている
- ・ やりたい仕事に就けたり、起業する人が増えている
- ・ 女性や若者が活躍している
- ・ 安来から新たな価値が生まれている
- ・ 安来の自然環境や地域文化をいかした仕事やプロジェクトが生まれている

方向性3
「市民の誇り・愛着の醸
成」を重視



- ・ 安来の良さが市民の中で共有され、愛着が高まっている
- ・ 安来で育った子ども達が「住み続けたい」「将来は帰ってきたい」と思える
- ・ 安来の愛着や誇りにつながる特産品やコンテンツが生み出されている
- ・ 安来の認知度が上がっている
- ・ 住民が主体的にまちづくりに取り組んでいる

まちづくりの方向性について

- 人口ビジョン実現に向けた施策分野・テーマの具体化
雇用場の場、特に若者や女性にとって働きやすい場の増加
子育て支援、結婚支援
（仮称）安来スマートインターチェンジや切川バイパス周辺開発に伴う振興策
過疎・中山間地域対策
- SWOT分析のSO（住宅環境、自然の恵み、地域とのつながり、自己効力感、健康状態、文化・芸術）を踏まえた視点
- 弱みや、データで表れにくい部分に焦点

基本構想で打ち出すメッセージについて

- アクションや心構えを共有できるものに
- プロモーションとブランディングは区別して考える
- どこでも通用する言葉ではなく、安来の現状や夢を捉えたものに
- 危機感を共有するためのインパクトのあるものに

市民ワークショップ（5/11）

総合計画のコンセプトで大切にすべき点や改善に向けた意見

- 新しい色々なことにチャレンジできるというワクワク感を感じられるまち
- 愛着を大切にしたい
- 住んでいる人が住み続けることができるまち
- チャレンジできて、安心して住めるまち
- 安来らしさを大切にしながら新しいことも取り入れてほしい

島根県立大学学生振り返り会（5/16）

安来の魅力について

- 「人」 人がいい、近所づきあい、若い人の向上心
- 「誇り・愛着」 市民が誇りを持っている、おすすめの場所をたくさん教えてくれる
- 「自然」 安来の地形ならではの楽しみ、自然を大切にしている

基本構想の検討に向けて：安来が大切にしてきたもの、安来に眠る価値の確認



わ ざ
「技」

安来には、数々の「ワザ」があります。

- たたら製鉄の伝統を受け継ぐものづくり技術と産業（ヤスキハガネ、刃物）
- 安来節、どじょうすくい踊り、伯太太鼓などの郷土芸能
- 広瀬絨の染織工芸
- 民藝運動を推進した陶工・河井寛次郎の生誕地
- 難攻不落の山城・月山富田城の城づくり技術
- 足立美術館に所蔵される芸術作品、日本庭園の造園技術
- 稲作やいちごなどの農業、園芸 など

安来で生まれ、受け継がれてきた「ワザ」の存在は、市民の誇りそのものです。

「ワザ」を、安来市のまちづくりを推進する上で大切にすべきもの（キーワード）と位置付けます。

<“ワザ”と読む漢字>

「工」：制作する。優れた技。たくみ。職人。物を作る人。

「伎」：腕前。巧み。芸者。わざおぎ。芸人。俳優。（舞踊や歌舞伎など芸能の分野）

「技」：細工をする手並み。優れた技術を持つ腕前。（美術や工芸の分野）

「芸（藝）」：修練して身に付けた技。技能。学問。きわまり。果て。限度。

「術」：専門的な知識。技芸。技能。技を用いた行動。

「業」：成し遂げた行い。わざ。技術。技能。

「幹」：働き。腕前。

“真価” – 安来の価値を知る –

- この地で脈々と受け継がれてきたワザと、その背景にある歴史・文化、自然、営みを知り、これからも大切にしていきます。
- 安来の価値を知り、大切にすることで、市民の誇りやまちへの愛着を醸成します。

“深化” – つながりを深める –

- 歴史、人、地域とのつながりを深めます。
- 市民が互いの価値観を尊重し、主体性をもって安来市のまちづくりを推進します。

“進化” – 次の時代に挑む –

- 10年後の安来を見つめ、環境の変化に適切に対応しながら、次の時代につながるまちづくりを推進します。
- 市民の新たな挑戦を応援し、夢を実現できる安来市を目指します。

将来像（目指す姿）

- 安来市は、たたら製鉄にはじまり、磨かれた“技”によって豊かさがもたらされ続けてきたまちといえます。
- 安来の“技”の価値を知ることは、安来の歴史や自然、地域の人々の暮らしとのつながりを知ることであり、市民の誇りや愛着につながります。そして、安来の“技”を人々の暮らしやまちづくりに活かし、磨いていくことは、市民の幸福（安らぎ、豊かさ）にもつながります。
- しかしながら、そのことを市民一人ひとりが自覚し、行動を起こしていかないと、安来に伝えられた“技”が途絶え、幸せな暮らしができなくなる可能性があります。
- 古来から受け継ぐ“技”を守り、活かし、さらに磨き、明るく輝く新しい時代の“安けき安来”をつくれます。

（検討案）

「安来にワザあり、暮らしに安らぎあり」

「ワザが光る 心やすらぐ オール安来で挑戦するまち」

「安来のワザと安らぎをつむぎ、新たな挑みで変わ(え)るまち」

「ワザを称え、安らぎをつむぎ、シンカするまち」

将来像（目指す姿）の実現

まちづくりの基
本姿勢

真価

安来の価値を知る

深化

つながりを深める

進化

次の時代に挑む

保健・医療・福祉

誰もが健康で、安穏な暮らしができるまちづくり

子育て・教育・文化

安心して子育てができ、心豊かで、たくましい人が育つまちづくり

防災・防犯

安全に暮らせるまちづくり

産業・観光・雇用

市民の挑戦を支え、安泰な暮らしができるまちづくり

都市基盤・生活

快適・便利で、安住できるまちづくり

自然・環境保全

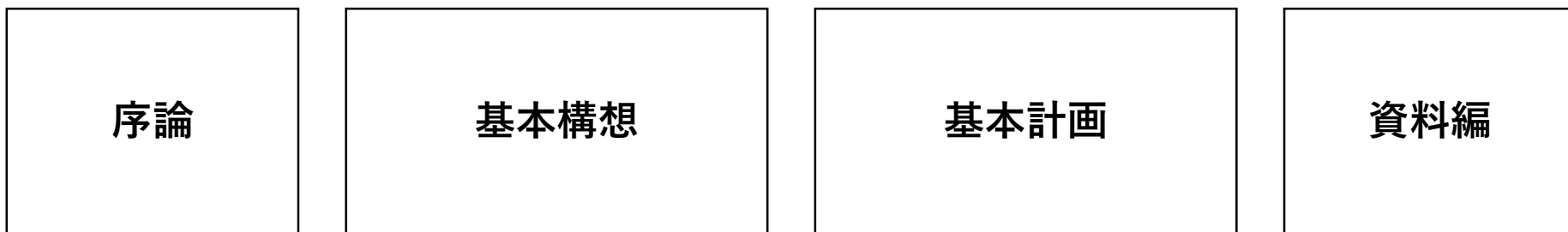
心に安寧をもたらす恵まれた自然と共生するまちづくり

参画・協働・行財政

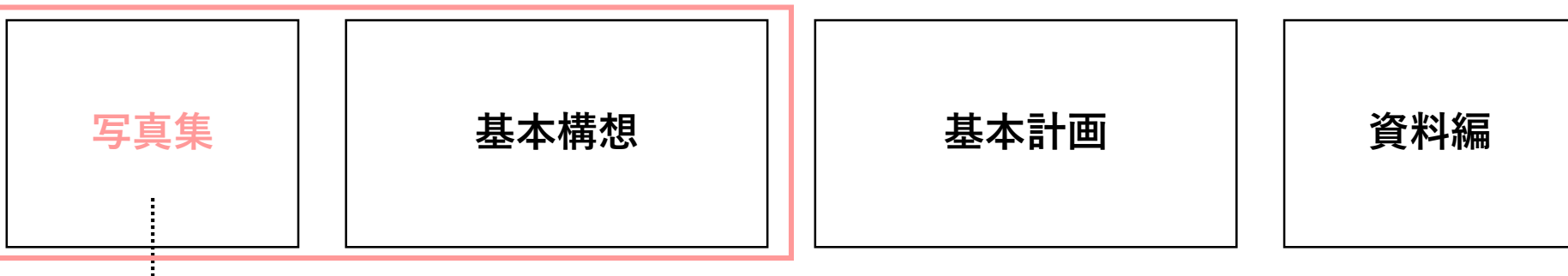
つながり深め、オール安来で、安定したまちづくり

基本施策

従来の総合計画の構成



次期総合計画の構成



安来の“技”の数々をビジュアルで見せることにより、【作成方針】（p2）で示した

- 市民にとってわかりやすく、手に取り、読みたくなる内容・表現
- 市民が自分ごととしてまちの将来を考えたり、行動するきっかけとなるもの
- 安来市のこれからの担う子ども・若者にきっかけを与えるもの

につながる計画とします。

写真 (イメージ)

